

5. 市政への反映検討項目

■ 目指す姿にするための取組みを提言する。

取組みの目的 =理想の姿	目的達成のための目標	目標を達成するための成果	目標を達成するために考えられる取組み
(市民一人ひとり誰もが安心がし尊て重さみやすい平・葦崎市の自由な社会生活を実現する)	【尊重する】 地域・人を尊重する	LGBTQを意識せず何ら変わりなく接する	<ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画推進委員会などの場で、トイレや風呂を男女兼用として利用することについて、話題に取上げ、一緒になって対話を行う(結論を出すのではなく、意見交換を行い、様々な考えがあることを知り、相手のことを考えるきっかけとすることが目的)。
		誰もが自己の多様性を自由に表現し、尊重する	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に対して性的志向や性自認等(ソジー)に関するアンケート調査を行い結果を公表する。 ●市民全員が男女共同参画推進委員と同様に自分事として考える機会を作る。 ●自治会に対して、役員選定や婦人会などの集まりに男女での偏見(アンコンシャスバイアス)がないか見直し依頼を行う。
		必要な市民が制度に登録し、住みやすい葦崎とする	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな機会を通じてのパートナーシップ制度の周知に努める。
		無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)を自覚し、解消が進む	<ul style="list-style-type: none"> ●一過性でなく、継続した広報・啓発を実施する。 ●葦崎市で多様性の日を決めて、周知及び広報に啓発に係るチェックシートを作成し掲載する。 ●テレビコマーシャルにて啓発(1,500回以上)する。 ●各種メディアでのPRを行う。
	【知る】 知らないこと・自覚していないこと改善する	ジェンダーフリー・SDGs・LGBTQについて小中高で毎年教育されている	<ul style="list-style-type: none"> ●改善事例を具体化した資料等を作成し、学校等に配布する。 ●小中学校での学習を定着させる。 ●学校で講師を招いての学習を行う。 ●教師が多様性について学び、児童・生徒に伝える。
		パートナーシップ・ファミリーシップ制度の背景・内容が市民に認知される(学生・企業)	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生に男女共同参画推進委員会に参加してもらう。 ●多様性に関連した事例を調べて、学生や企業に周知する。 ●多様性についてのわかりやすい動画を作成し、YouTubeで流す。 ●自己観察(セルフチェックシート)で己の偏見性を知る。
		多様性・無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)の事例が分かりやすく準備され活用されている	<ul style="list-style-type: none"> ●多様性の学習本を編纂し、市民に配布する。 ●自分事として捉えられるような内容での広報・啓発を実施する。
		小中学校生活・市民社会生活・企業活動でいじめやハラスメントがない	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に対してカミングアウト時の影響を調査し、分析結果を公表する。
	【気付かせる】 意識の欠如を改善し関心を注ぐ	偏見弱者(性的マイノリティの方)が望むことを理解している	<ul style="list-style-type: none"> ●市民全体に対して、LGBTQの方やアライ(Ally、LGBTQの共感者)を招いての講習会を開催する。 ●市役所において、LGBTQの方を採用する(臨時的・普及啓発員)
		多様性とは何か?自分は他者を色眼鏡で見えていないか見つけ直している	<ul style="list-style-type: none"> ●市内中学校にジェンダーレス制服を導入 ●市内に男女兼用トイレの設置について調査研究する(話題を提供し、意識を向けさせる)。
		カウンセリングの支援で多様性やLGBTQの理解促進がされている	<ul style="list-style-type: none"> ●カウンセリングできる場所を確保・設置する。
		多様性に係る少数派の人にカミングアウトされるよう信頼される人になる	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民の条件反射の植え付けの基本を考え直す(LGBTQは普通のこと)。 ●アライ(Ally、LGBTQの共感者)を掘り起こし、男女共同参画推進委員会と一緒に活動をする。 ●当事者が作成した動画をPRする。